

## 指定講演Ⅲ

# 1. 心筋SPECTの適正画像を作るために

虎の門病院 放射線部  
森 一晃

現在の核医学装置は、決められた収集プログラムで撮像して、ワークステーションにあらかじめ適切な値を設定してワークフローを組んでおけば、投影データを入力するだけで自動的に画像再構成が進行するシステムになっている。核医学画像処理に不慣れなローテーションスタッフや初学者にとっては強い味方であるが、あまりにプログラムを過信していると思わぬアーチファクトを作ってしまったたり、正しい再構成画像が作れなかったりすることもあるので、SPECT収集時や処理過程において正しい過程と正しい結果が得られているかを常に見直す必要がある。

心筋SPECT画像の作成過程において着目すべき点としては、投影データが正しく取得できているか、体動の有無をサイノグラムで確認、心筋外集積の有無の確認、再構成領域の設定、再構成条件(再構成法、前処理フィルタ)の設定、心軸の設定、画像表示、QGSの結果確認(心筋輪郭抽出の正確性)等が上げられる。自動処理化されているワークフローの裏にはどのような設定が必要で、どのような処理を踏んでいるか、適切な画像を作るうえでどのような点に注意すべきかを解説する。

### 略歴

1989年 東北大学医療技術短大部 診療放射線技術学科卒業  
虎の門病院放射線部入職  
1993年 東京理科大学理Ⅱ学部数学科卒  
2010年 城西放射線専門学校 非常勤講師  
2012年 虎の門病院放射線部科長(現職)

現在に至る

### ■所属学会・資格：

日本核医学会理事、日本核医学会PET撮像施設認証制度委員会副委員長、日本核医学技術学会理事、第44回日本核医学技術学会総会学術大会大会長